

配車アプリの普及と
相乗り・ダイナミックプライシングへの
取り組みについて

JapanTaxi株式会社
代表取締役社長
川鍋一郎

JapanTaxi

移動で人を幸せに。

Delivering Happiness, One Ride At a Time

日本初の配車アプリ「JapanTaxi」に代表される配車プラットフォームから、決済プラットフォーム、広告事業、IoT事業、R&D事業まで、多岐に渡った事業を展開。



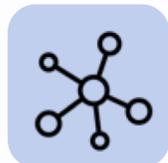
配車プラットフォーム



決済プラットフォーム



広告事業



IoT事業



R&D事業

社名	JapanTaxi 株式会社 JapanTaxi Co.,Ltd.
本社所在地	〒 102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル 03-6265-6265(代表)
設立	1977年8月17日 (日交計算センター(株)として)
資本金	129億1,000万円(資本準備金含む・2018年9月現在)
事業内容	情報処理サービス業、旅行業(東京都知事登録旅行業 第3-6444号)
役員	代表取締役社長 川鍋 一郎 取締役 金高恩 取締役 岩田 和宏
従業員数	119人(2018年9月末時点)

配車アプリの展開

約600万DL・日本最大のタクシー配車アプリ「JapanTaxi」

全国47都道府県で約7万台と、全国のタクシー車両1/3がアプリで呼べる。

タクシーが呼べるアプリ。

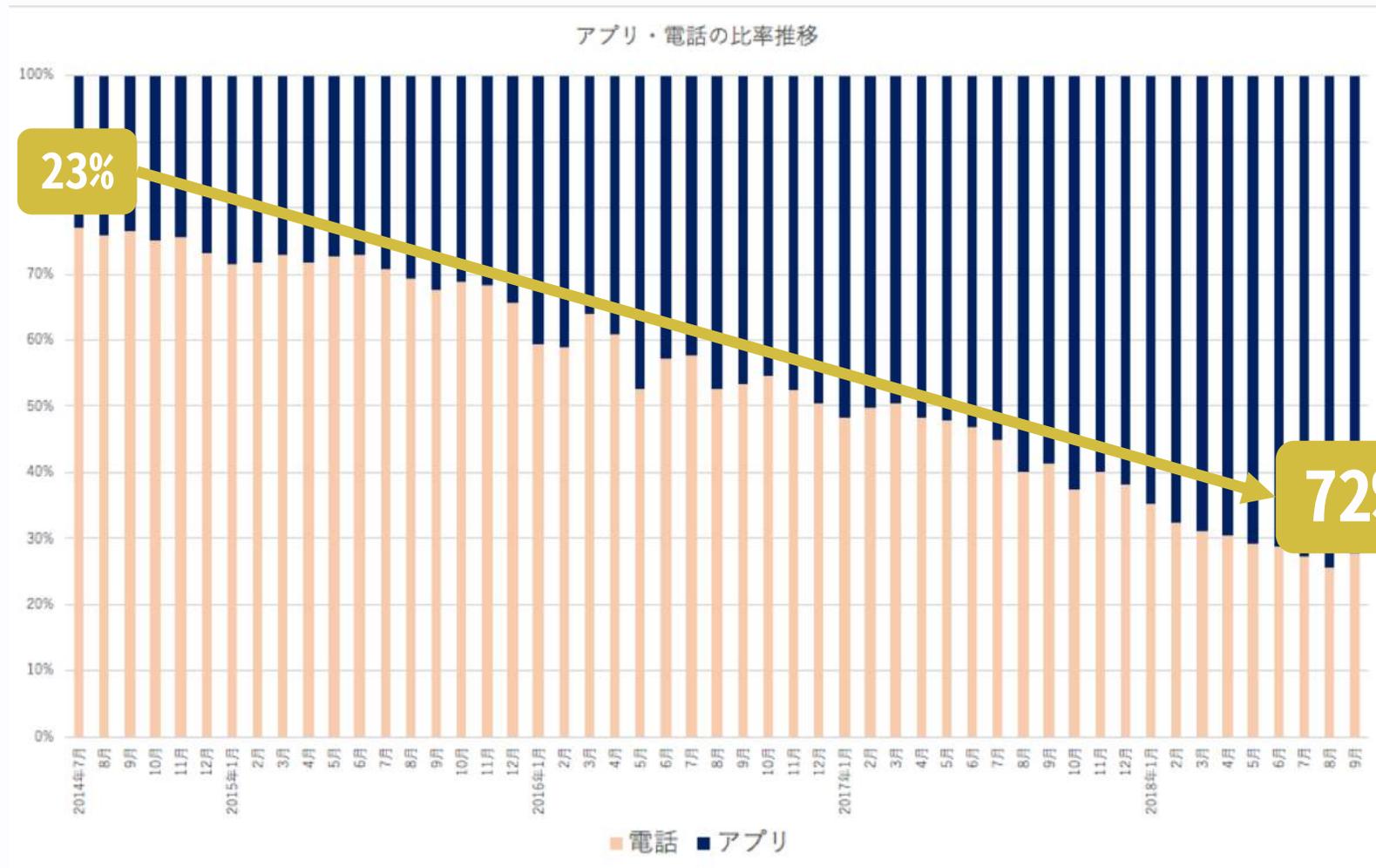
 **JapanTaxi**



配車アプリの展開

約4年間で、日本交通内のアプリ経由注文が電話を大きく上回る。

電話注文の絶対数は減っておらず、アプリ注文が純粋増加。



多言語対応・決済機付き・サイネージタブレットの全国展開

コンテンツ配信と決済対応を兼ね備えたデジタルサイネージ端末

QRコード、クレジットカードや交通系ICなど

マルチな決済手法に対応可能な「決済機付きタブレット」を全国展開。

日英中(簡/繁)韓の多言語対応、2020年までに全国**5万台**の展開を目指す。



※クレジットカードは1万円以下はPIN、サインレス



トヨタ・NTTドコモを中心とした100億円以上の資金調達

トヨタがJapanTaxiに約75億円を出資、タクシー向けサービスの共同開発検討へ

2018年2月08日 by masami_ohsaki

シェア ツイート BI はてな

トヨタ自動車とJapanTaxiは2月8日、タクシー業界全体の活性化・効率化を目指し、タクシー事業者向けサービスの共同開発等を検討することに合意したと明らかにした。合わせてトヨタがJapanTaxiに約75億円を出資することにも合意したという。



トヨタは以前からモビリティの管理や利用、分析など様々な機能を備えたプラットフォーム「モビリティサービスプラットフォーム」の開発を進めている。2社での共同開発にあたっては、このプラットフォームとJapanTaxiの連携を強化していく方針だ。

具体的にはタクシー向けのコネクティッド端末、配車支援システムの共同開発、ビッグデータ収集といった分野での協業を検討していくという。

これまで同社はそれぞれタクシー業界でサービスを展開してきた。トヨタは2016年8月5日に全国ハイヤー・タクシー連合会との協業を発表。東京エリアで通信型ドライブレコーダーを活用した実証実験やタクシー業界の効率化を図る研究、サービスの開発にも取り組んでいる。

一方のJapanTaxiもタクシー配車アプリ「全国タクシー」を2011年より提供していて、2017年12月には累計400万ダウンロードを突破。車両登録数は全国のタクシー車両の約4分の1となる約6万台で、タクシー配車アプリとしては国内トップのシェアを誇る。

タレコミ・寄稿お待ちしております！

メールマガジン購読

新着記事を毎日配信します

メールアドレスを入力 登録する

メールマガジンには広告が含まれる場合があります。TechCrunchのイベント関連情報などをお送りさせていただく場合もあります。個人情報保護方針

SONY

2018.02.26

日本最大のタクシーアプリ「全国タクシー」運営の「JapanTaxi」が「未来創生ファンド」より10.5億円を資金調達へ 累計調達額91.5億円に

JapanTaxi
Ready For The Ride?

CNET Japan > ニュース > 企業・業界

ドコモ、タクシー配車のJapanTaxiに22億円を出資

2018年07月30日 16時50分

PR | 【リージェン入門】 手間を減らして、低コストで少しずつ始めるリードジェン
PR | 多忙なひとり暮らしに朗報！ クライアントPC測定もデルなら安心
PR | 横浜市がオープンデータに挑戦！ 「データ活用社会」のオススメ記事を編集部が厳選！

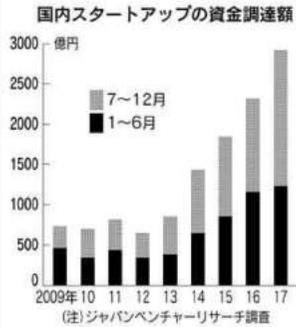
NTTドコモは7月30日、JapanTaxiと資本・業務提携契約を締結したと発表した。ドコモは、JapanTaxiに対して総額22億5000万円を出資して、同社の株式を取得する。

両社はこれまで、ドコモのAIエージェントサービス「my daiz」と、JapanTaxiのタクシー配車アプリ「全国タクシー」を連携させるなど、双方のサービス価値向上のための取り組みを進めてきた。今回の資本提携により、JapanTaxiが全国展開している、QRコード決済機能を搭載した広告タブレットに、ドコモの「d払い」など新たな決済手段を導入するという。

また、ドコモが提供している、数時間先のあるエリアにおける人の数を予測する「近未来人数予測」などの技術と、JapanTaxiが展開する配車プラットフォームおよび、広告プラットフォームなどを組み合わせたサービスの開発を検討するとしている。

2018年のスタートアップにおける資金調達最高額

スタートアップ 資金調達額最高



1～6月1700億円 フィンテックが活況

国内スタートアップベンチャーリサーチ(東京)の資金調達額が2018年1～6月に1732億円となり、記録が残る10年間で最高を更新した。7月以降は大型調査は続いているが、18年上半期は17年(2921億円)を上回った。18年上半期の調査数は65社で、このうち金額が判明したのは54社。平均額は3億1100万円と17年(2億9800万円)に迫る見通しだ。上半期の調達総額は65社で、このうち金額が判明したのは54社。平均額は3億1100万円と17年(2億9800万円)に迫る見通しだ。

調達額の最大は配車アプリのジャパントクシー(東京・千代田)。トヨタ自動車などから85億5000万円を調達した。自動運転向け基本ソフト(OS)を開発するティアフオー(名古屋)はKDDIやソニーなどから32億6000万円の出資を受けるなど、移動サ

たフィンテック分野はサービス関連も目立つ。フィンテック分野はサービス関連も目立つ。フィンテック分野はサービス関連も目立つ。フィンテック分野はサービス関連も目立つ。

たフィンテック分野はサービス関連も目立つ。フィンテック分野はサービス関連も目立つ。フィンテック分野はサービス関連も目立つ。フィンテック分野はサービス関連も目立つ。

順位	社名	調達額
1	ジャパントクシー	85.5億円
2	フォリオ	69.8億円
3	メルカリ	50.0億円

2018年上期調達額ランキング

(順位と調達額はジャパンベンチャーリサーチ調べ)

順位	社名	調達額
1	ジャパントクシー	85.5億円
2	フォリオ	69.8億円
3	メルカリ	50.0億円
4	お金のデザイン	50.0億円
5	アベジャ	42.5億円
6	ディアフォー	32.6億円
7	エブリー	30.0億円
8	クラウドティアン	27.0億円
9	BASE	25.3億円
10	エアロエッジ	22.0億円
11	FINC	21.0億円
12	タベルモ	20.0億円
13	プレイド	20.0億円
14	アセントロボティクス	20.0億円
15	C Channel	17.5億円
16	ジェネシスヘルスケア	16.0億円
17	ピットアルゴ取引所東京	15.0億円
18	SmartHR	15.0億円
19	ウエストユニティス	14.2億円
20	ベルセウスプロテオミクス	14.0億円

JapanTaxi

相乗りタクシー実証実験の取り組みと課題感

2018年1月~3月「相乗りタクシー」実証実験

International
登録会員：上原 達也様 | 設定 | お知らせ

日本経済新聞

2018年7月5日 (木)

トップ 経済・政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際・アジア スポーツ 社会 地域 オピニオン 文化 マネー ライフ

根付くか「相乗りタクシー」 22日から都内で実験

2018/1/18 19:40 (2018/1/18 23:36更新)

都内タクシー大手と国土交通省は22日、共同で「相乗りタクシー」の実証実験を始める。複数の乗客をスマートフォン（スマホ）の配車アプリで束ねて、運賃負担を減らす狙い。需要盛り起こしヘライドシェア大手の仕組みを日本に持ち込む。知らない人と乗る抵抗感を解消できるかが焦点だ。

NIKKEI

「タクシーになじみがない若年層を取り込みたい」

国土交通省

YouTube Twitter 本文へ 文字サイズ変更 標準 拡大 音声読み上げ/ルビ振り English

Google カスタム検索 検索 検索方法 サイトマップ

ホーム 国土交通省について 報道・広報 政策・法令・予算 オープンデータ お問い合わせ・申請

報道・広報

ホーム > 報道・広報 > 報道発表資料 > 平成30年1月から「相乗りタクシー」実証実験開始

平成30年1月から「相乗りタクシー」実証実験開始 ~相乗りで、タクシー利用を割安に~

平成29年12月19日

来年（平成30年）1月22日（月）から3月11日（日）まで、配車アプリを活用し、タクシーを相乗りで割安に利用できるサービス（「相乗りタクシー」）の実証実験を行います。
このたび、東京ハイヤー・タクシー協会のご協力を得て、東京23区、武蔵野市、三鷹市のエリアの協力事業者が決定しました。

■相乗りタクシーとは？
配車アプリを活用して複数の利用者を1台のタクシーにマッチング。タクシーを一人で利用するより割安な運賃で利用可能に。これにより、「タクシーの運賃は高いから」という理由で利用を控えていた方にも利用しやすいタクシーサービスを目指します。事業者・ドライバーにとっては、複数の利用者を効率的に運送することが可能になります。

■実証実験概要

- 配車アプリ上で乗降地を設定し、同方向に向かう利用者同士をマッチングします。
- 運賃は、相乗りする利用者の最初の乗車地から最後の降車地までの走行距離に応じて算定した金額を、各利用者が単独で乗車した場合の推計走行距離に応じて按分して算定します。乗車前に金額が分かります。（[参考1](#)）
- マッチングの成立状況、運賃水準の検証、利用者アンケート結果等を踏まえ、制度化に向けて検証していきます。
- 利用可能アプリの情報など、実証実験の詳細は、開始前に改めてお知らせいたします。

アプリ上でマッチング、料金支払いまでを完結

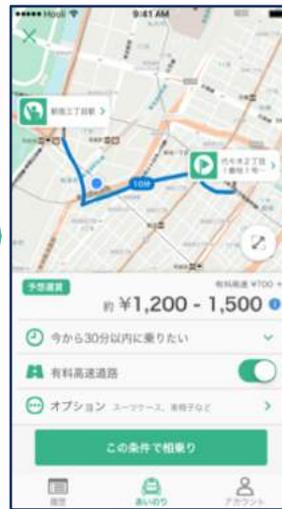
アプリ登録



乗降車地入力



相乗り申込み



マッチング待ち



マッチング



相乗り確定!



タクシーのボトルネックである「価格」を下げられる

利用イメージ



- Aさん：渋谷→武蔵小杉

- 通常運賃 約5,850円



- 相乗り運賃 約**4,000**円



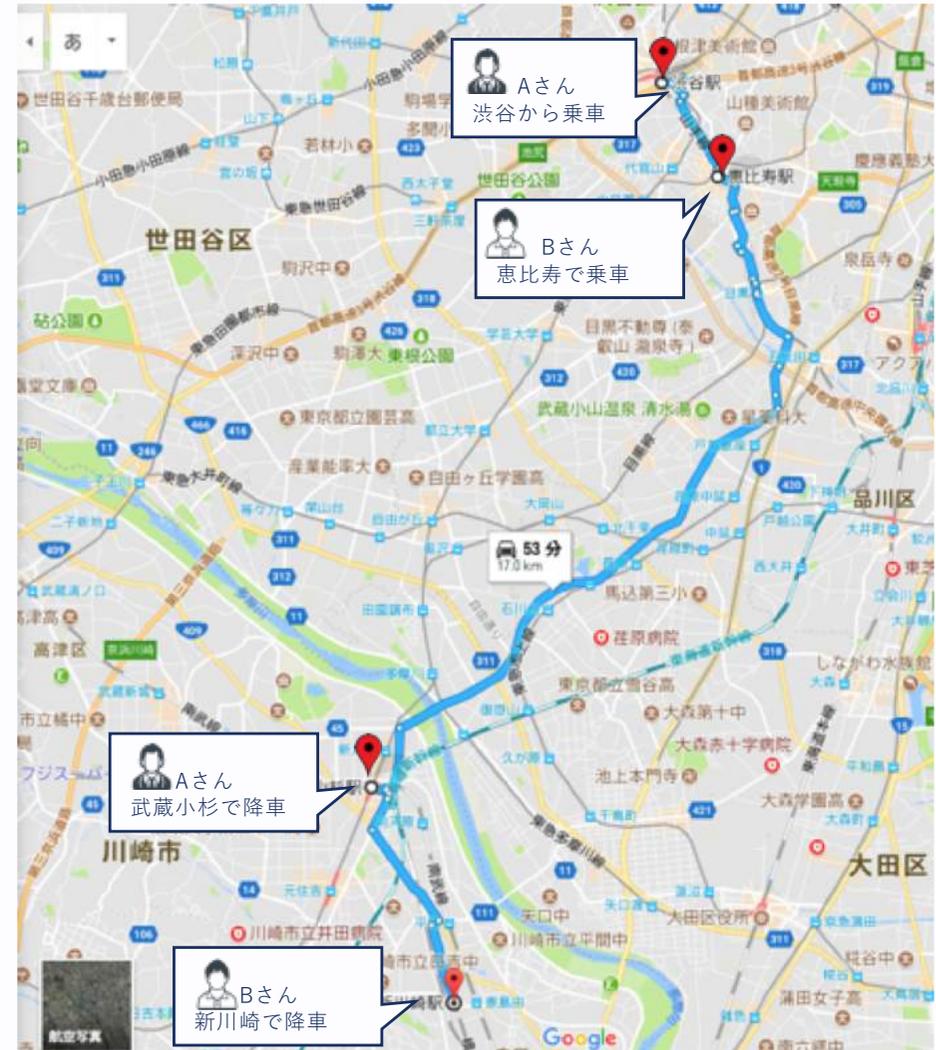
- Bさん：恵比寿→新川崎

- 通常運賃 約5,450円



- 相乗り運賃 約**3,800**円

*金額はあくまで参考です。実際はルート・時間に応じて高速料金や深夜割増料金が加算されます。
*相乗り運賃は暫定式として通常運賃の60%としており、実際の計算式とは異なります。



利用実績と課題

インストール数

19,000 | JapanTaxiアプリ:600万DL

年齢層

20~30代が約70% | タクシーのメインユーザー層より低年齢

注文数

約6,000件

マッチング数

約250件 | マッチング率は約10%、平均運賃は1人利用の約7割



課題：母数の少なさによる、マッチング率の低さ

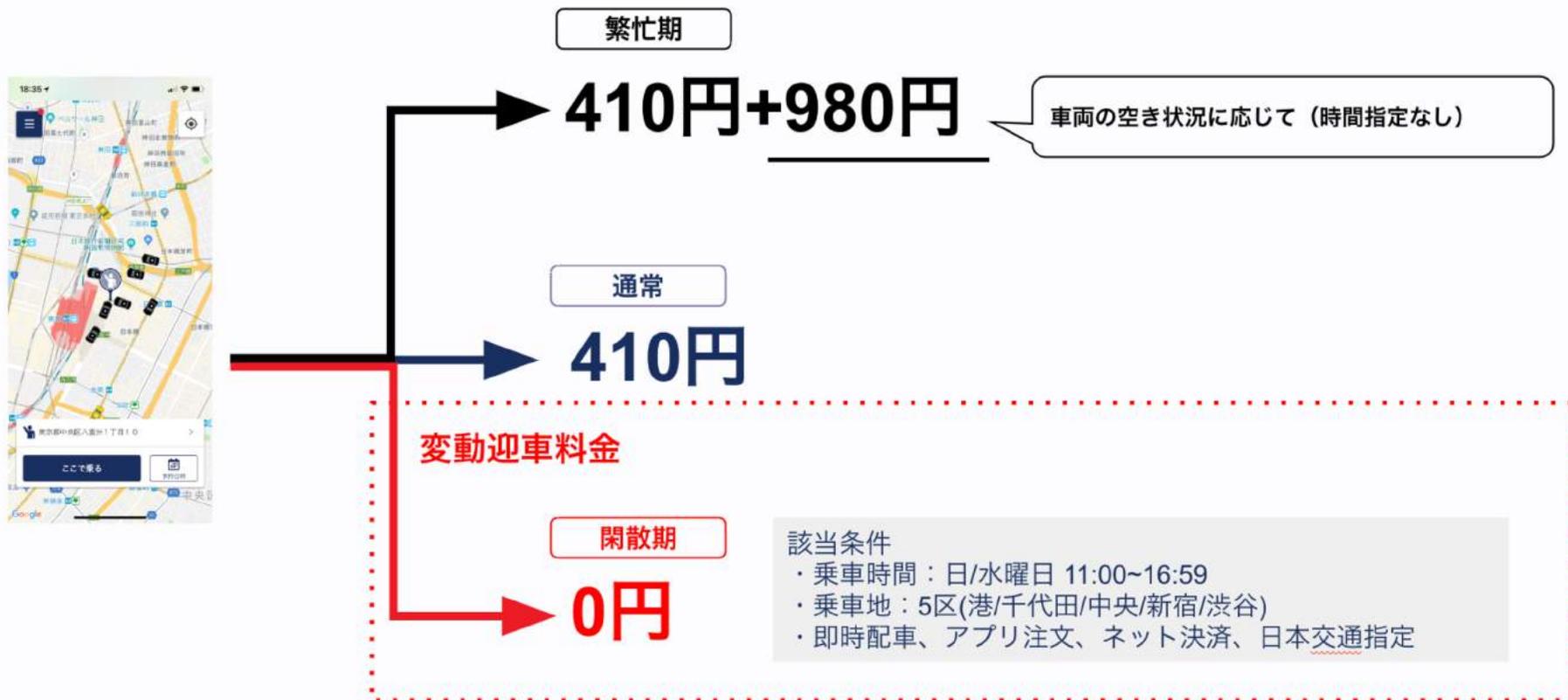
解決策：JapanTaxiアプリへの機能実装により、ユーザ母数を約300倍規模へ

JapanTaxi

変動迎車料金・実証実験の取り組み紹介

変動迎車料金について

時間帯、エリアなどを軸に繁忙期・閑散期を定めた
“ダイナミックプライシング”に関する実証実験を実施中。



JapanTaxi

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12
3-12 Kioicho Chiyoda-ku, Tokyo 102-0094 Japan
TEL 03-6265-6265 FAX 03-3239-8115
www.japantaxi.co.jp

文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。
Proprietary and Confidential ©2018 JapanTaxi, Inc.
All Rights Reserved